

西宮市消防団長

木 嶋 巖



阪神・淡路大震災の記録誌の作成にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

身も心も凍てつくあの日、突然の激しい揺れが、我々のふるさとを襲った一瞬の出来事、今迄にかつて体験した事のない大震災でした。

死者 1 千余人、全半壊家屋 6 万、3 日間で火災が41件、そのうち地震発生から約 1 時間以内に22件の火災がありました。火災の延焼を最小限に食い止めるとともに、人命救助も不眠不休の態勢のもと、必死で限度の72時間以内に漸く作業を終えることが出来ました。

4 日目の 1 月20日から消防団は、消防団担当係長が短期間のうちに調達した給水タンクを38台の消防自動車に積載し、消防自動車の緊急性と地域の実情に明るい利点を有効に活用して、僻地や高齢者を主にした給水活動を続け、2 月20日までの 1 ヶ月間ライフラインの復旧に尽力しました。

各分団が地域に密着しているという特性を十分に生かして団員を速かに召集し、消防局ともお互いに協力し合いながら連携を保ち、必死に活動していただきました。その上、なんと申しまでも消防自動車の完全なまでに充実した配備こそ初期消火に成功し、延焼を最小限度に食い止められた要因であると考えます。

市当局を始めとして市議会の皆様の皆様のご理解をいただいていたことについて感謝いたしますとともに誇りに思っています。

団員各位が旺盛なる消防精神でもって、消火と人命救助が絶対使命とは申せ、自ら家族の死亡、負傷、家屋の全半壊など相当なる痛手を受けているのも顧みず直ちに出動し、1 ヶ月余の長きに渉る懸命なる活躍に対しまして心から感謝の誠を捧げるものであります。

また、地域におきまして自主防災組織や婦人防火クラブ、まとい会、消防団OBの方々の活躍協力も大変なものがありました。

この震災で色々な事を体験しましたし、与えられました教訓も確かに多くあります。

今後は、消防団は地域に密着した防災機関として、郷土愛の精神に基づいて、大きな成果をあげた活躍を忘れることなく、地域防災のリーダーとして消防局、消防団、自主防災組織などが三位一体となって災害から自分達の地域を守ってゆかなければならないと痛感いたしました。

最後に、各市町とりわけ近隣の消防団関係より早速心暖まるお見舞い並びに応援隊の派遣など、ご懇切なるご厚意にたいしまして深く敬意を表しますとともに、唯々感謝の他ございません。

有難うございました。